

EPOC/CPOTセミナー

レ

ク

チ

ャ

ー

形式セミナー

RNA

3回シリーズ

RNA異常を標的にしたがん治療法開発の最新動向

第3回

6.21 金

17:00-18:00

会場

リンクラボ柏の葉1
千葉県柏市柏の葉6丁目6番2号



クリックすると地図が開きます



横井 晃

エーザイ株式会社

DHBL Cell Lineage & Differentiation ドメインヘッド

がん領域におけるスプライシング制御薬の可能性

近年、RNAスプライシングの異常が、がんの発生と維持に関与することが強く示唆されつつある。我々は、細胞株を用いたPhenotypicスクリーニングより、2つのタイプのスプライシング機構作用薬を見出してきた。RBM39分解剤とSF3Bモジュレーターである。RBM39は選択的スプライシングを調整し、U2 snRNP複合体と作用するスプライシング因子として知られている。抗腫瘍性スルホンアミドE7070ならびにE7820は、細胞周期抑制作用ならびに血管新生作用に着目した薬剤として開発されたが、その後のケミカルバイオロジー研究より、RBM39分解活性を有することが明らかとなった。また、我々はSF3Bモジュレーターとして、天然物プラジエノライド誘導体であるE7107を創出した。本化合物は、VEGF遺伝子のプロモーターの活性を阻害する化合物として見出されたが、U2 snRNPによるイントロンのブランチ部位配列の認識を阻害する活性を示すことが明らかとなった。本講演では、これらスプライシング機構作用薬の研究開発の経緯について紹介するとともに、スプライシング機構作用薬のがん治療応用の新たな可能性について議論したい。

参加登録はこちら！

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZltduCgrjgsG9OpwaS54dytJdOKryaoDZH>

会場参加の場合も登録をお願いします。

